

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
 担当課長名：下保 修

事業名	一般国道349号 <small>やながわおほし</small> 梁川大橋		事業区分	一般国道	事業主体	福島県
起終点	自：福島県伊達市梁川町八幡 至：福島県伊達市梁川町五十沢			延長	1.1km	
事業概要	一般国道349号は、茨城県水戸市を起点とし、宮城県柴田郡柴田町に至る延長約256kmの幹線道路である。梁川大橋は、一級河川阿武隈川に昭和32年架橋した現橋梁の老朽橋解消とバス路線の運行の円滑化を支援することを目的とした延長1.1kmの橋梁整備事業である。					
H10年度事業化	H 年度都市計画決定 (H 年度変更)	H11年度用地着手	H12年度工事着手			
全体事業費	41億円	事業進捗率	67%	供用済延長	0km	
計画交通量	8,100台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 2.6 (残事業) 13.4	総費用 (残事業)/(事業全体) 8.8/46億円 (事業費：7.1/44億円) (維持管理費：1.8/1.8億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 118/118億円 (走行時間短縮便益：116/116億円) (走行経費減少便益：2.6/2.6億円) (交通事故減少便益：0.42/0.42億円)	基準年 平成19年		
事業の効果等	・国土・地域ネットワークの構築（バス等の大型車すれ違い困難区間の解消） ・災害への備え（緊急輸送道路第二次確保路線の確保） 他4項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見	・国道349号建設促進期成同盟会より早期整備の要望を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	・事業を取り巻く環境は特に変化しておらず、事業採択時と同様の効果発現が見込まれる。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	・平成19年度に、梁川大橋上部工の架設及び取付道路工が完了し、全線供用を予定している。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	・平成20年度から21年度の2カ年で旧橋撤去工を予定しており、平成21年度の事業完了を図ることとしている。					
施設の構造や工法の変更等	・梁川大橋のゴム支承に新材料を使用し、コスト縮減を図っている。 ・河川改修事業による建設発生土を盛土材として有効活用し、コスト縮減を図っている。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	・以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。